

リギングでは、まず艇を水平に置き、安定させることが基本です。ここではワークハイトの測り方と調整方法を説明します。

1 まず艇を水平に置き固定する Place the boat horizontally

1.1 水平に置く

リギングは、艇を水平に置き、固定することから始まります。艇の前後・左右の水平を、水準器で測定して調整します。その艇にあった計測ポイントを知っておかなければなりません。

1.2 固定する

折り畳み式のウマなどでは、ロッド(棒)などを両舷にあてて、艇がぐらぐらしないように固定します。これは特に後述の「カバー角を調整」するために必要です。補助者が固定する場合、ぐらぐらさせてはあまり効率がよくありません。棒などを地面に立てて、リガーと一体で持てば、安定して固定できます。

2 調整の順序 Order of the rigging

リギング要素の調整順序に、厳密な順番はありませんが、一つの計測・調整が、後の作業で再調整が必要になるのでは無駄です。ここでは、以下の順序で調整します。(艇の構造によって、受難が異なる可能性もあります。)

- ①ワークスルー、ワーク高の調整。
- ②スパン、インボードの調整。
- ③ブレードカバー角の調整。
- ④ストレッチャーの調整。

これとは別に、様々なリギングの要素を、実際の乗艇の中で、どのような順序・優先度で調整するかという課題もあります。

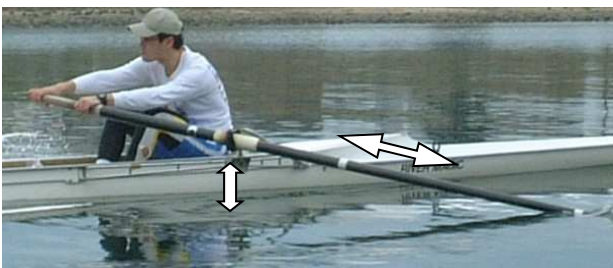
3 ワーク高の調整 Height Adjustment of the Work

3.1 ワーク高の定義 Height of the Work

ワーク高とは、オールロック(クラッチ)の高さのことで、「シートの座面(最低部、中心線上の後端など)を基準として(※1)、ミドルの位置にしたオールロックのシル(=オールロックの内面のうちの底面)中央部の高さ」をワーク高と定義します。ワーク高は、オールロックをミドルの位置で測るのが基本です。

※メーカーによって、基準位置が異なる場合があります。

ワーク高は、「水面」を基準として考えることも重要です。シャフトと水面のなす角度を適度に確保する必要があります。一般的な設定順序とは逆に、水面からのワーク高を適切に設定し、それによってハンドルから上体の高さが決まり、それに応じてシートの座面の高さを最適にするという手順が、より理想的です。

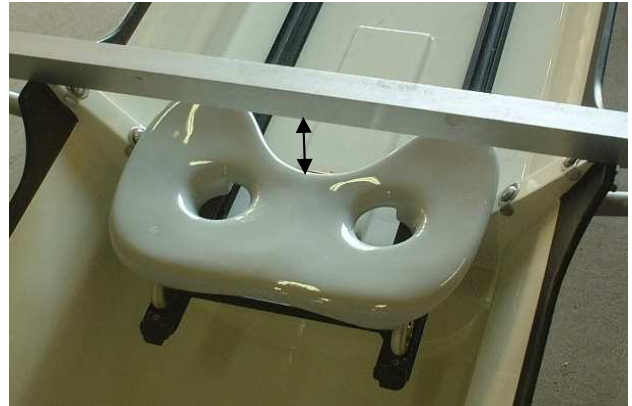


ワーク高は、水面とシャフトから適度な高さに設定する必要がある。

3.2 計測方法

Measuring of the Height

ワーク高の計測には、Lゲージ(リギングバー、スティック)を使います。ガンネルにゲージを置き、シート座面からゲージ下面までの高さとし、ゲージ下面からオールロック(ミドル位置/シル中央)までの高さを測定し、両者の合計がワーク高です。



シート(中心、最後端を推奨)からガンネルまでの高さの計測。



ガンネルからオールロックまでの高さの計測



ハイトを計測するときは、「ミドルの位置で」シルの中心で

3.3 調整

Mechanism for Adjustment

ワーク高の調節方法は、リガーの構造に異なります。リガーの取り付け位置の変更、(リガーの取り付け部にスペーサの挟み込み)、多孔式か長穴式のL板の差し替え、ピンのワッシャーの差し替えなどを行います。



L板は孔の位置でハイトを調整できる